

## 第2回九州圏広域地方計画プレ協議会

日時：平成20年1月24日（木）13：30～

場所：第5博多偕成ビル 10階会議室

### 【司会】

定刻となりましたので、ただいまから「第2回九州圏広域地方計画プレ協議会」を開催させていただきます。本日はお忙しい中、本会議にお集まりいただきましてまことにありがとうございます。

私は、本日司会を務めます、九州地方整備局 建政部 計画・建設産業課長をしております大井と申します。よろしくお願いいたします。

では、開会に当たりまして九州地方整備局 副局長の小池よりご挨拶申し上げます。

### 【事務局】

地方整備局の小池と申します。よろしくお願いいたします。第1回が18年11月ということで、随分と間があいてしまいました。その経緯等につきましては、後ほど説明させて頂きたいと思います。

九州の場合には、まず理念をしっかりと立てるべきだという方針で始まり、その検討に少し時間を要したというのが実情でございます。その中でようやく、大きな枠組みの方針を事務局としてお示しする段階までまいりました。本日は、それについてご説明させていただき、ご意見をいただきたいと思います。

理念の先に、どういうプロジェクト、あるいはプロジェクトを支える事業にしていくのか、という大きな山があるわけでございます。ご案内のように、そういうものにつきまして、地方が主体となって発案していくというのが一つの大きな広域計画の眼目になっているところでございます。そういうことで、協議会のメンバーが主体となって進めていくということになるだろうと思っております。これからいろいろなご審議をお願いすると思いますが、よろしくお願いいたします。

本日は、国土交通省 国土計画課局から九州ブロックの担当であります藤本課長にもご出席いただいております。全国の状況等につきまして紹介頂きます。そういう状況を踏まえて審議をさせて頂ければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

【事務局】

続きまして、国土交通省 国土計画局 地方計画課長の藤本よりご挨拶を申し上げます。

【国土交通省 国土計画局】

国土交通省 国土計画局 地方計画課長の藤本と申します。本日はよろしくお願ひいたします。

日頃より国土行政につきまして格別の御支援・御協力を頂いておりまして、この場を借りまして心よりお礼を申し上げます。

国土形成計画につきましてですが、全国計画につきましては大詰めの段階に入っております。来月の2月13日には国土審議会を開催させて頂きまして、できるだけ早く閣議決定にもっていきたいという段階にきています。

この全国計画におきましては、今後の国土づくりにつきましての基本的な方針としまして、多様な広域ブロックが自立的に発展する国土を構築するとともに、美しく暮らしやすい国土を形成する、ということが考えられおり、その中身は今後皆様方にご議論をいただく広域地方計画に大きく委ねられているということでございます。

具体的には、先ほど副局長からも話がございましたように、広域ブロック単位で地方が主体となっただき、地域の将来像を見定め、地域の特性を活かした独自性のある具体的な地域戦略を、重点的かつ選択的な取り組みにより打ち出して頂きたい、それを実践して頂く、ということが全国計画で期待されているということでございます。

地方計画につきましては、各ブロックで、全国計画の策定を待つまでもなく作業を順次進めていこうということで、九州圏におきましては、平成18年11月にプレ協議会を開催させて頂き、それ以降、精力的な検討を進めていただいているという状況と聞いております。

広域地方計画は広域ブロックという広い見地から、地域の経済や社会の発展の在り方、あるいは戦略を描く総合的かつ基本的な計画、という性格を持っております。

したがって、この観点から検討に当たりましては、一つは既存ストックの活用も含めハード及びソフト一体となった取り組みをぜひ検討の視点に入れて頂きたい。

また2番目には、ひとつに交通インフラがありますが、それ以外にも環境保全や、産業振興、医療・福祉という府省横断的な施策、取り組みを踏まえて頂きたいということです。

3番目には、民間との連携という視点にも十分に留意してご検討頂ければと思っている次第でございます。

さらに加えますと、広域地方計画の意義を考えますと、県域をこえた広域的な連携による戦略的な取り組みについて積極的なご議論を、ぜひこの場で頂ければありがたいと思っております。

九州では、観光面では官民が一体となって、九州観光推進機構が設立されております。まさしく九州全体がそういう取り組みをされようということだと重みます。そういう九州全体の一体的な取り組みや、複数県あるいは県境をこえた形で各地域が連携するような地域づくり、地域振興にあたる取り組みについて具体的にご検討され、地域主導のもとで推進されることを期待しているということでございます。

本日お集まりの各県・政令市の皆様、また国の関係の農政局・経済産業局をはじめ、地元経済界の方々、皆様方のぜひ知恵を結集していただきまして、九州圏独自の計画が作成されるよう、引き続き精力的なご検討をお願いできればと思っております。

全体的な今後のスケジュールとしましては、全国計画の閣議決定後、それを受けた形で広域地方計画協議会を正式な形で立ち上げていただきます。夏の21年度の概算要求への反映を念頭に置きながら、広域地方計画策定作業を一段と本格化させていただければありがたいと思っております。

したがいまして、正式な広域地方協議会の立ち上げの際には、これまでの事務段階の議論を中間的に整理していただき、その後の計画策定作業につなげて頂ければと思っている次第でございます。

また2月5日には知事クラス等との意見交換会を開催させて頂くという予定になっておりまして、国会の情勢が許せば大臣も参る予定になっておりますので、ぜひ知事の皆様方からの忌憚のないご意見を聞かせて頂ければと思っております。

最後になりましたが、国土計画局としましても九州圏の今後の発展につきまして、一層の力を尽くしていく所存でございますので、今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願いしたいと思います。以上で私のごあいさつにかえさせていただきます。

#### 【事務局】

先程ご挨拶をさせていただきましたが、事務局から資料を説明する前に2点ほどお話をさせて頂きたいと思っております。

スケジュールについて、国土交通省 国土計画局から説明がございましたが、確認のために申します。去年、この議論のスタート時点では、全国計画が決定されて、それから1年間かけて広域地方計画を作るというスケジュールでご説明をしていたと思います。

ただ、2つ事情変更があります。1つは、全国計画の方がご案内のように、道路の中期計画というものが昨年末に策定するという話が加わり、それを踏まえてから内容を決定するということになりました。そういうこともございまして、3月にずれ込んだということが1つございます。

ところが一方で、これも皆様それぞれのお立場で非常に大変なご苦労をされていると思いますが、地域の活性化というか、都市、道路、地方の格差是正というか、そういうことで既に19年度、今年度からいろいろな施策が講じられているという状況がございます。そのような中で、21年度予算に反映していくという日程に合わせていこうということで、21年度予算、今年の夏というスケジュールについては変わらないということになっているわけでございます。

正式な広域地方計画の決定までの手続き、これは法律に決められている市町村からの計画提案とかパブリックコメントとかがあるわけですが、そういうものが非常に短い期間の中で取り行っていないといけないということになってまいりました。

この協議会もタイミングごとに窮屈なスケジュールの中で行っていくことが必要になっていくわけでございます。

大変にお忙しい中、誠に恐縮でございますが、これからはお時間を割いていただきまして、やっていくということについてお願いをしたいと思います。

さきほど、2つ目の山が大きいという話を申し上げました。今日ご紹介するのは、ある意味でいえば理念、方法、そういうことでございます。それにつけ加えてプロジェクトや事業を検討していくのですが、キーワードは地方主導、地方主体あるいは連携です。連携といっても各県の連携であったり、あるいは市町村の連携であったり、そちらの連携が主ではないかと思っております。

もう1つは、そこで狙うプロジェクトというか事業についても、きちんと政策の評価を行っていきましょうという話があります。そういう政策評価や効果など、そういうものにつきましても、この協議会がその1つの主体となって任務を果たしていこう、というようなことが期待されています。その意味で、地方が主体となった計画であるというか、プロジェクトであるということ。その中身は、連携ということが一つのキーワードであるとい

うこと。かつプロジェクトにつきましても、評価ができるようなレベル、そういうものとして検討してやっていかなければいけない。こういう課題があるわけでございます。

先ほど決定前のスケジュールということを申し上げましたが、その内容につきましてもかなり精力的なご検討をお願いするということが必要になってくると思っております。重ねてお願いを申し上げて、事務局からの資料説明に移らせていただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

#### 【司会】

では、議事に先立ちまして、事務局からご連絡いたします。

本会議は、会議及び議事録ともに公開となっております。委員の皆様にはあらかじめご了承ください。よろしくお願いいたします。

また、お手数ですが、お手元の資料の確認をお願いいたします。本日も用意しております資料は資料1～3、参考資料1枚となっております。過不足または乱丁等がございましたら事務局までお知らせいただきますようお願いいたします。

本日の会議の出席者紹介につきましても、お手元に配付しております出席者名簿により紹介にかえさせていただきます。ご了承ください。早速、次第に沿って進めさせていただきます。

まず、「議事1これまでの検討経緯について」「2キックオフレポートについて」、事務局からご説明いたします。

#### 【事務局】

九州地方整備局九州圏広域地方計画推進室の田中でございます。私から議事1、2につきまして一括してご説明させていただきます。

お手元の資料、右肩に資料1と書きました検討経緯につきましてご説明させていただきます。平成18年3月30日に最初のシンポジウムを福岡で開催しました。その後、シンポジウムは、九州各地で合計4回の開催をさせて頂いているところでございます。

また、8月、10月と2回の準備会を受け、11月30日にプレ協議会の発足となったところでございます。

年をまたぎまして2月15日に第1回目の学識者懇談会と検討小委員会の座長会議を皮切りに、たくさんの会議、シンポジウム等を開催させて頂いたところでございます。

裏のページ、昨年度 11 月 19 日から 12 月 17 日にかけて 3 つの検討小委員会をそれぞれ 4 回、5 回の委員会を開催させて頂き、ご意見を賜ったところでございます。

12 月 21 日には第 3 回の学識者懇談会ということで、34 名の学識経験者の皆様方のご意見を頂き、キックオフレポートについて議論を重ねて参りました。

これらを受けまして 12 月 25 日に第 3 回目のプレ協議会の幹事会を開催させて頂きまして、これまでの検討を受け、本日キックオフレポート素案として提出させて頂いたところでございます。

資料 1 につきましては、簡単でございますが以上でございます。

続きまして資料 2 として A 3 の横でございます。キックオフレポート（素案）構成図ということです。全体の構成を示させて頂いております。大きく全体を 3 章で構成させて頂いております。

第 1 章が現状と課題。1 節で九州圏の位置づけと圏土構造の特徴。2 節で経済社会情勢の転換と課題。

第 2 章では、新たな九州像ということで、第 1 節で基本理念、第 2 節で新たな九州像。第 3 節で新たな九州像を描く。期間としましては、今後概ね 10 年間とさせて頂いているところでございます。

第 3 章に移りますと、新たな九州像の実現に向けた戦略と対応ということです。第 1 節に戦略展開の基本的な考え方として、三層からなる自立圏の創造、ということをご記述させて頂いているところでございます。また第 2 節では、新たな九州像の実現に向けた 7 つの戦略ということで、本日の意見交換の資料として提示させて頂いているところでございます。また第 3 節では、実現に向けた効果的な推進方策ということをご記述したということで、章構成を組み立てているところでございます。

続きまして、資料 3 です。本日の意見交換のたたき台としまして、キックオフレポート（素案）の内容として A 4 横でお手元に配付させて頂いております。

1 ページめくってください。九州圏の位置づけと圏土構造の特徴です。第 1 章の第 1 節に該当する部分でございます。

九州は、我が国の中では東アジアに最も近い圏域で、歴史的にも海外の刺激を受けながらそれを受け入れつつ発展してきたという経緯がございます。また 3 つの国土軸の結節点として、中国圏や四国圏、また沖縄等と結びつき、こういう中で発展してきた圏域でございます。

また九州を一つの国にたとえますと、欧州の中規模国のベルギーやオランダ、スイスなどの国に匹敵する人口・経済規模を持った圏域でございます。

九州圏のもう一つの大きな特徴としまして、基幹都市圏が適度に分散しており、なおかつ、その都市と自然が非常に近接している、こういう国土構造、圏土構造を持っているという特徴がございます。

九州の産業の集積でございますが、従来から我が国の食料・木材供給基地として、また一大観光地として重要な地位を占めてきたわけでございます。近年におきましては、自動車が百万台生産を突破するなど、自動車産業や半導体産業、また新たな次世代の環境やエネルギー産業、そういう集積がなされている現状をお示しさせて頂いております。

九州はその地形上、多くの離島を配している外洋に囲まれ、そういう環境・自然に恵まれております。また内陸は急峻な山地や急流といわれる河川、またこれらの自然がもたらす豊かな森林・水資源に恵まれた個性ある地域資源を多く有しているという特徴がございます。

経済社会情勢の転換と課題です。第1章の第1節に該当する部分でございます。一番上に掲げているのはグローバル化の進展、アジアの急成長・経済発展が、東アジアに開かれた九州圏としては発展のポテンシャルが非常に高いというところでございます。グラフにございますように、1990年では23%でしたが、2006年には46%と非常にアジアとの貿易額のシェアが高まっているという状況でございます。

全国も同じでございますが、九州も本格的な人口減少、少子高齢化の社会を迎えている。特に九州は全国に先駆け2001年には既に人口はピークに達しておりまして、現時点では減少傾向をたどっているという状況でございます。

また高齢化率を見ますと、2005年には22%でございますが、2030年には34%、3人に1人が高齢者であるという社会を迎えるという状況でございます。

左下に課題としてあげさせて頂いております。地球温暖化や異常気象、世界規模での資源エネルギー需要の増大、こういう大きな課題がございます。そういう中で、九州の豊かな自然や、このような気象変動への柔軟な対応、美しい九州を次世代にきちんと継承していくことが課題である、という形で挙げさせて頂いております。

一方、右側に書いておりますが、社会的変化という中で、ライフスタイルの変化、価値観の多様化、そういった中で新たなさまざまな活動主体が成長してきているということです。例としまして、九州でも2007年にはNPO認証数が既に3,000を超えているという状況

を示させて頂いております。

3 ページです。第2章にあたる部分でございます。新たな九州像ということで。2つの基本理念と3つの九州像ということで掲げさせて頂いております。

基本理念の1点目は、東アジアとともに発展し、我が国や世界の人々が訪れ、暮らし、働き、投資したい、という活力と魅力ある圏域をつくっていく、ということを手助けさせて頂いております。2点目は、豊かな自然と魅力ある都市の利便性、これらとともに享受できる暮らしと多様な価値観に応じた多彩な生活や就業を実現する九州圏域となっている、ということで2点手助けさせて頂いております。

次に3つの九州像でございます。東アジアの成長と連動し自立的に発展する九州圏の形成として掲げさせて頂いております。国内での九州の位置づけだけではなく、東アジアの中の九州圏という視点から、東アジアとともに新たな発展を目指していく、としております。また、隣接する中国圏・四国圏・沖縄圏との結びつきを強化していく、とさせて頂いております。

右の方に移ります。2点目です。九州の豊かな自然と都市的利便性、これらの補完関係を享受しながら多様な活躍の場を創出していくということです。どこに住んでいても、一定の社会サービスや就業の機会、豊かな自然等を享受できる、そういう多彩な生活が選択できる社会をつくっていこうということでございます。

下です。安定した経済成長とともに、若年層にも九州にとどまりたいと思えるような魅力ある活躍の場を創造していくとさせて頂いております。

3点目です。安全・安心で美しく誇りが持てる九州圏の形成として、日々の暮らしの安全・安心や、誰もが生活のゆとりと潤いを実感できる、そういう生活環境の形成です。豊かな自然や美しい景観、社会資本ストック等を良好な状態で次世代に継承していく必要がある。また、特に九州の伝統や文化、これらに誇りを持ち、生きがいを感じられるような魅力ある地域を創造していこうということで、九州像を描かせて頂いているところでございます。

次のページです。第3章、戦略の基本的な考え方です。三層の自立圏の創造ということです。目的として、九州圏の一体的な発展を促し、各地域が高次都市機能から生活支援機能までの、社会的サービスや就業機会を確保した上で、豊かな生活環境を実現する。そういう圏域の単位として、3つの自立圏というものを掲げさせて頂いているところでございます。

九州自立広域圏としまして、九州全体が一体的な発展を図る自立圏域と考えております。県庁所在都市をはじめとした基幹都市圏、これらが相互に連携していくことで九州自立広域圏を形成していく、九州が一体となって自立の単位をつくっていく、ということで下にイメージ図を掲げさせて頂いております。

2点目です。九州自然交流圏です。適度に分散した基幹都市圏及び概ね人口が10万程度の都市機能を持った都市（拠点都市と呼ばせていただいております）が、この基幹都市、拠点都市、これらと居住地域が交流連携することにより、より豊かな生活環境を実現していこうということです。都市と自然との互惠関係、これを構築していこうということで下の方にイメージ図を載せさせて頂いております。

3点目です。基礎生活圏です。日常生活における社会機能や活力を確保し、生活関連サービスを維持できる。そういう基礎的な生活圏というもの、概ね人口が3万～5万人程度以上の日常生活における都市機能を持った都市（これらを生活中心都市と呼ばせていただいております）が、生活文化交流軸をつくっていくことで、より豊かな社会を構築していこうということです。

下の方にイメージとして、九州圏内のあらゆる地域で最も小さな単位で考える自立圏の中では小さな単位でございますが、それぞれの自立圏域として、生活圏として掲げさせて頂いたところでございます。

第3章の2節、新たな九州像の実現に向けた戦略です。7つの戦略それぞれについて1枚ずつ資料を作らせて頂いたところでございます。

1点目は、東アジアのフロントランナーとして発展する九州圏の形成です。東アジアと我が国の結節点として、魅力的な国際フロンティアの形成です。九州が環黄海経済圏に含まれる中で、東アジア地域との密接な交流・連携や生産規模におけるネットワークの構築を掲げさせて頂いております。また従来からございます経済・技術・学術・文化という多岐にわたる関係、これらも更に深めていき、個性的で魅力ある国際交流フロンティアを形成していこうということを示させて頂いております。

2点目です。グローバル化に対応した成長型・牽引型産業アイランドの形成です。九州に定着しておりますカーアイランド、シリコンアイランド、フードアイランド、ヒーリングアイランドという4つのアイランド、これらの戦略的な展開を図ることで成長発展していく九州ということを示させて頂いております。

今後の成長が期待される次世代の産業アイランドについても、5つの新しい分野でさら

なる展開を図っていかうとさせて頂いております。

3点目です。軸の形成です。国際交流軸や他圏域との広域ブロック連携軸、これらをゲートウェイ機能の充実ですとか、交流・連携の支援のための交通施策、また日常的な国際交流・連携の推進、こういうものを積極的に強化していかうということで掲げさせて頂いております。

6ページです。個性的で魅力ある基幹都市圏を核とした多極型圏土構造と九州圏の一体的な発展です。県庁所在都市等を中心とした基幹都市圏、これらが多極型圏土構造を形成しております。その中でそれぞれの拠点の資源というものが、地域のそれぞれの規模、その特性に応じた特色ある拠点を今後も形成していくべきではないかということです。事務局の案として提示させて頂いております。

2点目です。文化・知識集約化による創造的都市の形成と多彩な人材の育成です。基幹都市における芸術・文化や産業の融合、そういうものを更に高めていく必要がある。また高次研究開発機能などの充実を図っていく必要がある。あわせて、これらを担う人材の育成が非常に重要ではないかとさせて頂いております。

3点目です。基幹都市連携軸の形成です。九州では、十文字型的高速道路がネットワークしており、新幹線等についても着実に整備が進んでいるところでございます。一方で、東九州軸（ミッシングリンク部と書いております）は、まだまだ整備を進める必要があるという記述をさせて頂いております。

また、情報化社会の進展の中で、情報通信基盤が今後の地域の発展を支えるうえでの、非常に重要な手段ではないかということで、ブロードバンド未提供地域の解消というものを掲げさせて頂いております。

7ページです。災害・環境ハザード最前線における美しく安全・安心な九州圏の形成として2点挙げております。

1点目は、九州圏の総合力を発揮した安全で安心な暮らしの実現です。九州は異常気象や災害など、そういう意味での最前線でございます。ハード整備はもちろんですが、減災という視点を取り込みながら、ハード・ソフトが一体となった災害に強い地域づくりを進める必要があるとしているところでございます。

また、広域的な連携体制の重要性、災害時などにおける救急医療体制、水資源の安定的な供給、このような視点から連携が重要であるとさせて頂いております。

2点目は環境共生アイランドとさせて頂いております。九州には、貴重な植物や動物、

自然環境など、多くのすばらしい環境がございますが、一方では東アジアと近接しているための環境問題や気温上昇、生態系の劣化など様々な課題がございます。これらを保全・整備していく中で、自然に親しむための環境整備、またこれを支える人材教育の場、そういったものを充実していくことを示させて頂いております。

また、地球温暖化対策の防止を積極的にすすめ、世界に貢献していこうということで、様々な取り組みがございます。最新の取り組みをしている九州においても、循環型社会の構築や流域圏、閉鎖性海域の環境保全、こういったことに積極的に取り組んでいくべきだとしているところです。

8 ページです。基幹・拠点都市圏と多自然居住地域の交流・連携による都市自然交流圏の形成です。2点掲げさせて頂いております。

都市自然交流圏の形成として、都市と多自然居住区域が非常に近接している中で、都市における高次都市機能の集積・充実・強化、拠点性の更なる強化を図っていく必要がある。また一方では都市の拡大ではなく、コンパクトで賑わいあふれる集約型の都市構造への転換が重要である。そういうことを掲げさせて頂いております。その中でも快適で魅力的な都市空間の形成というものが重要であるということに記載させて頂いております。

下には、水・緑・食・安全等これらの互惠関係を形成するような都市自然交流域軸の形成が重要である、とさせて頂いているところでございます。これらの互惠関係を結ぶような交通体系、航路とか空港も含めたこれらの整備が重要であると位置づけさせて頂いているところでございます。

9 ページです。生活中心都市を核とした安心でゆとりある基礎生活圏の形成です。4点掲げさせて頂いております。

1点目です。基礎的な生活支援機能、これを維持・向上するための生活圏の形成です。医療・福祉・救急病院や高等教育、商業施設、図書館、リサイクル施設など、日常生活支援をする機能の維持・向上を図る必要があるとしております。

また、少子高齢社会において、子供から高齢者まですべてが安全でゆとりある生活環境を形成していこうということで、ユニバーサルデザインや福祉の町づくり、子育て支援体制の充実、医療福祉の総合的なサービス体系の充実、高齢者の社会参加などを掲げさせて頂いております。

3点目です。生活活動に密着した地域産業の新たな展開です。従来、中山間地域等では農業だけではなく、新たな複合的な展開を図る必要があるのではないかという議論が出さ

れております。当然、基盤となる農林水産業の新たな展開や担い手育成が重要でございます。地場産業の高度化や観光の振興など、これらを一体化した商工連携の推進や、情報化社会を踏まえたうえでの IT の更なる活用（IT 先端技術と書いております）が重要ではないか。新たな需要をうみ地域産業の活性化を図っていく必要があるということを掲げさせて頂いております。これらの生活・文化活動の中で、天災ですとか、行政界にかかわらず、そういうものを超えた隣接的地域の交流連携、こういうものが今後非常に必要になってくるのではないか。そういう広域的共有の工夫が重要ではないかということで4点目に掲げさせて頂いております。

次の10ページです。離島・半島・中山間地域等の地理的制約を克服する豊かな定住環境の確保です。九州の大きな特徴のひとつでございます。離島・半島が非常に多く、また九州山地を中心とした中山間地域においては地理的制約を受けている、そういう中で克服していこうということで大きく取り上げさせて頂いているところでございます。

特に人口減少、高齢化が進む中で担い手不足、それと行政上非常に財政が厳しい中でサービスの低下に直面している状況がございます。これらを克服するという形で、都市機能と生活機能・就業機会など基礎的なものをしっかり確保していくべきということで、そのための交通アクセス、就業機会、産業の振興、更に医療・福祉・教育という社会的サービスの維持・向上、情報通信基盤の利活用というものが今後重要になってくるのではないかとということで、地理的制約を克服する全体をイメージとして掲げさせて頂いたところでございます。

2点目、九州の特徴でございます離島を特に取り上げて1項目あげさせて頂いております。離島地域におきましては、領海の確保、島特有の自然、貴重な歴史・文化、農林水産品の生産など、非常に重要な役割を担っております。その中で若年層が流出するという危機的な課題を抱えているところでもございます。これらを克服するためには、九州の特徴でございます海洋性の気候、恵まれた自然環境を活用して、産業振興をしていくことが基本的には一番大事ではないか。また、これらを進めるために、一見すると悪条件といわれる環海性、狭小性、隔絶性、こういうものを逆手にとって、これらを活用した地域性が重要になってくるのではないかとことで掲げさせて頂いております。

最後になります11ページです。九州圏の各地域の個性を活かした先導的な地域づくりです。地域創造アイランドの形成と掲げさせて頂いております。九州が持っている様々な先導的な活動事例、これらを更に活力づけるような施策展開が必要ではないかということで

す。大きく3つ挙げております。地域アイデンティティの醸成や個性と魅力ある地域の創造、交流人口の増大・所得機会の確保、大きな自然・文化・歴史、こういうものを背景として、地域がより魅力ある地域となるような創造的なアイランドを形成していくべきではないかと掲げさせて頂いております。

九州では従来から地縁や伝統的な地域の活動という様々な団体がございます。また最近ではNPOをはじめ、多くの活動主体が芽生えつつあります。これらをさらに活力あるような取り組み、これらをさらに支援する施策展開が必要ではないかということで、「新たな公」の活動領域のイメージを明示させて頂いたところでございます。

以上、駆け足ではございましたが、資料3の説明を終わらせて頂きます。

#### 【司会】

ただいまの説明をもとに意見交換に入りたいと思います。大体、1時間ほどの時間を割いていきたいと思います。ご意見やご質問等がありましたら挙手をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

#### 【大分県】

2月5日に知事と意見交換会が予定されておりますが、個別の議論の前に、そもそも地方計画というのは何なのかという質問を、知事からされると思います。改めて、地方計画、全国計画についてお答え頂ければと思います。今回の国土形成計画、特に地方計画はどういうものとして機能することになるのか。また、これをこの先どのように機能させることになるのか。端的にお答え願います。

#### 【国土交通省 地方計画課】

ご承知かとは思いますが、昔は全総という国土計画のスキームがありました。この法律が改正されて国土形成計画法という形にかわり、そのポイントは2つです。

1つは、従来の全総計画といわれているものは、開発基調が中心であった。量的拡大に対応して国土開発が中心テーマになっていた。ところが、これからの世の中は人口減少が本格化する中で、そういうことを前提にしながら、量的拡大中心というよりは質的な国土の向上を図っていくことが課題になってきます。量的中心から質的向上への展開となっていくというのが1つの大きなポイントです。

2番目が、これからの国土づくりにおいて、とりわけ地域が主体的になってやっていくということで、全国計画と地方計画という二層の計画をつくるという体系に変わっています。広域地方計画につきましては、協議会という組織をつくり、県・政令市等の地方公共団体と地元経済界、国の地方支部局等が中心となって今後の地域づくりを協働し、国と地方が対等の立場で協働して計画をつくる。そこがポイントであるということです。

とりわけ、今回の国土形成計画、全国計画の観点で申しますと、これからの国土づくりにおいては、広域ブロックで多様な地域づくりを進めることによって、一定のまとまりになった、それが広域ブロックでございますが、そこで自立的な発展を構築していく。これがポイントになっていて、それを実現するための計画づくりを広域地方計画でやっていただくというのが全体の考え方です。

#### 【大分県】

計画の書かれる文章の主語が誰かということがわからないのです。ここに書かれたときに、それを皆の目標としてそれぞれ取り組んでいきたいと思いますということなのか、もっと具体的に、これをこのように国が進めますと書き込んでいくということになるのか。役割をどのように担うのかということが、どのくらいイメージされる計画になるのか。今までは全総で書かれれば、基本的には国がそのプロジェクトを進めますということで、わかりやすかったと思いますが、これからは主語がわからない形になるのではないかと考えております。

#### 【事務局】

社会資本整備重点計画を広域地方計画とほぼ同じスケジュールで策定しようということを進めております。その両計画に関係するのですが、社会資本重点計画も全国の計画であり、その全国の計画のもとで各ブロックごと、九州であれば九州の社会資本整備の姿についてまとめようというスケジュールで進んでおります。

両者の関係は、広域地方計画が理念、こういう方向でやっていきたいと思いますを受け、昨今の情勢の中で事業量までは示すことにならないのではないかと考えておりますが、アウトカムのような指標をそれぞれの道路や河川、港湾など、さらに細分化されたものをつくって、それを位置づけていくという形を考えております。

例えば、観光の計画づくりの様なもの想定されているのですが、そういうものについ

でも広域地方計画と整合を図るということで話が進んでおります。

全総では、国主導のプロジェクトがメインだったと思います。今回の広域地方計画についても、国のプロジェクトが入らないという話にならないと思いますが、むしろそのプロジェクトを使って地方が何をしていくのか、それをきちんと位置づけて、そのもとでプロジェクトあるいは事業を展開していく、その辺が全総と大きく違ったものになるのかという認識です。

地方ブロックで何をしていくのだということを決める、策定する、検討する組織がここであるという位置づけだと思っております。以上です。

#### 【鹿児島県】

鹿児島県です。いまのご議論をちょっと聞いていてはつきりしないのですが、いま原案になっている全国の計画がございます。その第3部に広域地方計画の策定・推進という項目が書かれておりまして、その中でいろいろなことが書かれておりますが、例えば、「広域地方計画は、地域の実情に即した地域の将来像等を定める即地的な計画の枠組みである」ということとか、「広域の見地から、戦略的に実施するべき具体的な施策を記述する」と書いてあります。

具体的にいうと、例えば、広域ブロックのゲートウェイについては、「ブロック内に国際港湾、空港等の施設の機能向上の方策を明らかにする」と書いてあり、そして「広域地方計画の検討を通じて立案された地域戦略を推進する上で、新たな対応が必要となる場合は国において適切に対応する」というようなことが書いてあります。したがって、こういうことに基づき、広域地方計画が策定されるという認識ではないのでしょうか。

#### 【国土交通省 国土計画局】

広域地方計画は、繰り返しになりますが、全国計画を基本として地域で、広域ブロックという各圏域において具体的にどういう地域資源を活用した地域戦略を具体的にどう描いていくのかということを検討して頂くということだと思います。

いまご紹介があったようなことが一つの説明なり視点になっていく。まさしくそういう具体的な戦略を、この協議会の場で描いていくということだと思います。

#### 【長崎県】

長崎県です。本日は、理念なり方向性の議論ということでございますので、私どもは地方の現場の意見を組み込んでいただきたいという趣旨で申し上げたいと思います。

離島問題でございます。お話がありましたように九州の特色の一つは、離島と中山間部だと思います。その中において、この6番の離島・半島・中山間地域の地理的制約を克服する豊かな定住環境の確保というのが挙げられております。ここにぜひ、そういう離島のいろいろな競争条件を同一化するという趣旨での踏み込みをして頂きたいというのがお願いです。

なぜこういうことを申し上げるのかと申しますと、離島の現状が非常に厳しくなっているのです。今後10年の経過ということになると、ますます厳しくなるのではないかという危機感を持っています。人口で申しますと、長崎県には、全国の離島人口の4割が住んでおりますが、既にピークから6割が減っています。今後の人口予測をみますと、更にこれから4割減るという見込みでございます。

また、雇用の状況を見ましても、全国的に有効求人倍率で1.0を超えとか超えないという話がありますが、1.0どころか0.2とか0.3ということで、ほとんど雇用がない。加えて、近年の燃油高騰の問題あるいは限界集落の問題、非常に厳しい状況におかれているのが一つの九州の特色であるということ踏まえ、ここに考え方として挙げて頂いているいろいろな地域産業であるとか都市との自然の交流であるとか、自然環境景観の保全であるとか、そういう方向性を出して頂いておりますが、これを目指すためにも、地域独自の自然環境を活かすための条件がぜひ同一化されるという点を支援していくという方向性がないと、ここに書いてあることが現実的には難しいのではないかと思います。

今後、たたき台を詰められる中で、特段のご配慮を頂きますようお願いをしたいと思います。以上です。

#### 【事務局】

今後、検討させて頂きたいと思います。よろしくお願いたします。

#### 【福岡県】

福岡県から3点、ご意見とご要望という形で出させて頂きたいと思います。まず、福岡・北九州を中心とした九州北部の都市圏の位置づけについてでございます。全国計画におかれましては、各広域ブロックが直接アジアとの連携・交流を進めることにな

っておりますが、どのブロックも均一に、そのような役割・位置づけを持つわけではありません。各広域ブロックそれぞれがどのような特色をもったアジアとの交流を進めるのか、全国計画では明確にされていないために、九州圏につきましては広域地方計画の中で我が国におけるアジアとの交流の役割・位置づけを明確にするべきだろうと考えております。九州圏広域地方計画では、アジアへの地理的近接性、交流の実績を考慮しますと、どの圏域よりも強くその位置づけを打ち出すべきであると考えております。その際、物流、自動車産業等の経済分野、環境問題、若者文化の交流など、特色をもったアジアとの交流圏として差別化を図るべきだと考えております。その中で、福岡・北九州を中心とした九州北部の都市圏は、我が国の3大都市圏に次ぎ第4の都市圏を形成しつつありまして、県と両政令市はアジア交流広域都市圏として発展を目指しているところでございます。アジア交流広域都市圏という名称につきましては、県と両政令市が共同で協議し、我が国第4の都市圏の在り方を的確に示す戦略的地域像として使用しているものであり、全国計画へも提案しているところであります。これは要望でございます。ぜひ、アジア交流広域都市圏という名称を、地方計画の中に記述して頂きたいと考えております。

次に2点目です。福岡空港についてです。全国計画では新しい国土像実現のための戦略目標の第一にシームレスアジアの形成を掲げておりまして、そのための施策として、日帰りビジネス圏の拡張などを目指す東アジアにおける迅速な交流圏の形成が必要としております。本県としましては、九州圏の東アジアへのゲートウェイ機能の充実のためには、空港、港湾の機能強化が重要であり、このような中で東アジアに近く大都市圏の拠点空港に次ぐ航空ネットワークを有する主要地域拠点空港である福岡空港は、現に需給が逼迫しておりまして、今後ともその規模を十分に発揮できることにすることが九州圏の発展のためには必要であると考えております。

現在、福岡空港につきましては、将来にわたって国内外の航空ネットワークにおける拠点性を発揮しうよう、国、県、福岡市が連携して総合的な調査を進めているところでございます。具体的には、パブリックコメントを行っておりまして、現在ステップ3、そして、今年中にステップ4、これも最終段階でございますが、その公表後、空港の将来の対応策について決定される見込みでございます。

九州圏広域地方計画には、この調査結果を踏まえた抜本的な空港能力向上のための施設整備を含め、将来需要に適切に対応するための方策を講じることを明記すべきであると考えております。このことは、全国計画の中にも、需給の逼迫が懸念される空港においては、

そのネットワークの拠点性を継続して発揮するよう地域とも連携してその方向性を示す、と明記されており、それとの整合性の観点からも必要だと考えております。

なお、空港・港湾の機能分担と連携は、当然必要なことですが、各空港・港湾の基盤強化がまずは先決でありまして、機能分担と連携が前提と受け取られる表現は適切ではないと考えるので、「機能分担と連携のもと」という記述は避けるべきだと考えております。

3点目でございます。この計画の実行性の確保と推進体制についてであります。今回の計画は、各広域ブロックが自立的に発展することを目指しておりますが、その実効性を担保するためには財源・権限をはじめとする地方分権を一層推進することが極めて重要であると考えております。全国計画では、簡単に地方分権を推進していくと触れているだけでございますが、九州圏広域地方計画では、この点にどう対応されるのか、またこの計画をだれがどのように実行していくのか、ということについても触れるべきではないかと考えております。

本県としましては、九州圏の自立的発展という計画の目的を実効性のあるものにするためには、全国計画でも記述されているように、地方分権を推進することが最も重要であると考えておりますので、九州圏の計画の中でも「地方分権改革の理念を踏まえつつ」というような表現で、この計画を推進していくことを明確に記述すべきだと考えております。その上で、計画の推進体制として、九州地方知事会、九州地域戦略会議という九州圏の総合的・総括的な連携会議等との緊密な連携調整を図って実効性を高めていくべきではないかと考えております。

#### 【熊本県】

先ほど長崎県から離島についてご意見がございました。私どもからは中山間地あるいは林業、森林の公益的機能という観点でご意見を申し上げたいと思います。

いま、森林が非常に危機的な状況にあると私どもは認識をしております。防災面、水源涵養機能、そういうものが十分に果たしているかというような心配をしております。また、森林で成り立っております中山間地の生活というのは、もう生活が成り立たないために、人がどんどんいなくなる。高齢化率等を示した表がございましたが、高齢化率は、市町村の単位では30%ぐらいのことですが、集落単位では、ひどいところでは60%です。そうなりますと、ここ10年ぐらいのうちに集落は消滅してしまうところがございます。

林業が成り立たなくなった為に、人が住まなくなる。手入れができなくなったために森

林があいている、という状況が非常に深刻な問題であります。

そういうことを踏まえて、このレポートを読ませて頂きました。森林に関する記述が非常に少なく感じております。森林の持つ機能をどうお書き頂くのか教えて頂きたいと思えます。中山間地域の問題についても、ぜひ的確な記述をお願いしたいと思っております。

もう1点お願いでございます。九州新幹線の記述が1か所ございました。それに関連いたしまして、近隣地域を含めた一体的な発展を実現するために、中国圏、四国圏、沖縄との結びつきを強化していくことが必要であるという記述をされておられます。九州新幹線は、大阪まで乗り入れると聞いておりますので、地方圏にとどまらずに、ぜひ近畿圏、関西圏まで包括してという指摘をさせて頂きたいと思えます。以上2点でございます。

#### 【事務局】

検討させて頂きたいと思えます。事務局では、例えば森林をどうするのかという話になりますと、能力を超える部分もございます。森林の役割あるいはそれをどうしていくという点が望まれているのか、どうしていかないといけないのかということについて、何かご提案などがございましたらお寄せ頂ければありがたいと思えますのでよろしくお願い申し上げます。

#### 【九州森林管理局】

熊本県さんからお話がありましたが、産業ということでは、いまの九州は気候も温暖なところで、人工林資源というものが成熟してきております。世界的にみますと、資源がいろいろと窮屈になってくる中で、国内の木材資源に対して大手のハウスメーカーさんや大手の製材工場さんが非常に期待をしてくれております。九州が木材資源の供給基地になり得るという観点から注目されております。その意味では、安定的に供給することができるシステムを構築していかないといけないということで、国も県も連携して進めているところでございます。例えば、木材を供給する地域づくり。全国で11か所モデルがあるのですが、そのうちの4か所が九州にございます。

もう1つ、公益的機能という面からいえば、水資源あるいは防災という意味での治山、あるいは自然環境の保全、そういう機能もあるわけです。私どもも今回のレポートの作成にあたりましては、いろいろとご意見を提案させていただいておりますが、バランス上という点で、もう少し県や専門的部局をもっているところにご意見をお聞き頂ければ、充実

した記述ができるのではないかとことです。以上です。

【佐賀県】

個別のプロジェクトの話が出たので確認をしたいのです。副局長さんからプロジェクトについては、ここで政策評価をしていくという話が出ておりましたが、それはどういう手順で進められるのでしょうか。もしここで評価をすとなれば、再度、北九州、佐賀、両空港を含めた形での連携、これについて検討をお願いしたいと思います。

確認です。資料3の4ページです。基礎生活圏のイメージというのは、白抜きのところはいいのですが、基礎生活圏は九州に住んでいる住民であれば、すべて何らかを生活圏に投じているということによろしいでしょうか。

【事務局】

そうです。ご指摘のように、基礎生活圏については、九州に住む人々すべてという考えでおります。

【事務局】

施策評価について、期待されているというように申し上げたことについて、補足したいと思います。

ここで基本計画に位置づけるプロジェクトがどの程度の具体性を示せるか、それにかかっている関係もご置きます。そういうプロジェクトが、例えば、何年の間にどういう状況にするというところまでできれば、理想的にはその評価ということは、当然10年であれば、10年後の姿になるかもしれませんが、その間にもステップを踏むかもしれません。

ただ、短い間でどういうところまで具体的なものをやるのかということは、まだ不確定なものがございます。場合によっては、こういう状況にしていくというレベルまでにしかない可能性もございます。そういう場合においても、ある一定の期間をおいて、この場、あるいは全く別の仕組みかもしれませんが、そういう場で検証していくということになるかと思っております。そのあたりの仕組みは、まさにこの協議会で決めていくことになるのではないかと考えておまして、またご相談をさせて頂きたいと思っております。

【宮崎県】

宮崎県でございます。素晴らしいレポートを見せていただきました。ただ一言、言わせていただくと、先ほどのご説明の中で国と地方が一緒になってこういう計画をつくっていくのだという中で、計画案作成の進め方として、まず最初に各県の課題意識というか、そういうところを吸い上げた方が良かったのではないかと思います。特に、我々宮崎県から見た場合には、九州圏をどうするのかというときに、これだけ遅れた東九州の経済をどう考えていくのか中山間地の問題と同じように取り出し、九州全体の中で東九州をどうするのか、という視点があってもいいのではないかと思います。

今後知事等との意見交換会があるということでございますが、各都道府県、市町村の意見をどのように吸い上げていくのかということをご一度考えていただきたいと思っております。以上でございます。

#### 【鹿児島県】

鹿児島県です。各県の方から、中山間地の問題であるとか、離島の問題であるとか、宮崎県さんもおっしゃいましたが、協議会としての、キックオフレポート素案の中で、第2節が九州圏の課題と書いてございます。このあたりの課題の認識を明確にする、明確にした記述に心掛けるというのが我々の仕事、まず1つのスタートポイントではないかと思います。例えば、宮崎県さんからお話がありましたが、先ほどの概要説明の6ページの下の方の真ん中に、東側がミッシングリンクということになっております。こういう表現が適切かどうかは別としても、そこがまだつながっていない、リンクされていないということの記述を、入れ込んでいくことが必要かと思っております。それから、長崎県さんから離島の話がありましたが、この地図を見ましても、我が県は奄美まであるわけですが、なかなか地図には入らないのでオミットせざるをえないということはあるかと思いますけれど、基本的な認識として、離島の振興ということも奄美には重要であります。今回の全国計画の中でも、新たに、例えば海域の利用と保全というような項目が入ってきたとか、隣接する広域圏、こちらでいいますと沖縄県ですが、そういうところとの連携という観点からも、例えば奄美の果たすべき役割等々についても、課題の認識という点でもう少し明らかにしていくのがいいのではないかと思います。

もう1点です。内容の話なのか言葉の話なのか分かりませんが、資料2の構成の中で第2節の1です。アジアへのフロントランナーとして発展する九州圏の形成。フロントランナーというのは先導者としてということだと思っておりますが、この(1)の国際交流フロンティア

の形成とありますが、英語のフロンティアかもしれませんが、ということなのか。言葉はうまく選択しないと、フロンティアという言葉にいろいろな意味があります。国境であるとか、まだ手がついていない開拓地であるとか、要するに言葉を少し選定した方がよい。全国計画ではゲートウェイということで、世界との架け橋という言葉が使われておりますが、こういう圏域を形成するということか、フロントランナーとしてやるのか、論議をしたうえで用語を選定した方がいいのではないかと思います。以上です。

#### 【事務局】

フロンティアの表現につきましては、幹事会の方からもお声をいただきました。また私も国際交流拠点というものを、フロントランナーに結びつくような表現できたらと思いい苦慮しているところでございます。これに代わる名称等がありましたら、ぜひ幹事会を通じてでもご提案頂けるとありがたいと思います。よろしくお願ひいたします。

#### 【北九州市】

このレポートは、九州地域全体が発展するように、その担い手として我々九州の人間がどうやってこの地域をつくっていくのか、という具体的な指針にならないといけないと思います。その意味で、先ほどから出ましたが、もう少し現実の問題を踏まえて、強める部分が必要ではないかという気がしております。3点ほど申し上げたいと思います。

1つは、アジアとの関係です。アジアとの関係では、まさに地理的に近いわけでありませんが、各ブロックが、例えば首都圏や東海ブロックなど、それぞれがアジアに向かってやると、空港等を考えると、決して九州が優位であるとはいえなくなってくるという気もします。というのは、九州が実はそれぞれの地域でいろいろな交流をやってきているわけですが、バラバラにやってきているわけです。アジアに向かって本当に九州が一体となって力を発揮するためには、我々が九州の中で横につながって有効ないろいろなリソースを活用しないと、結局は無駄なことになってしまう。自治体はよく中国に行くと言いますが、中国の方からは、九州の方はいろいろな組織からバラバラ来られます、と言われます。それでは勝てない。その意味で、もう少しそれぞれが頑張りましょうということではなく、我々がどこかでつながりましょうという視点です。広域で連携するという視点はありますが、もう少し突っ込んで、課題としても一度確認をしないと、掛け声ばかりでは、まとまっている東京などに勝てないと思います。そういうことで、広域連携というよりも、もう

少し具体的に現実の課題を踏まえるべきではないか。例えば、インフラにおいても、既存のインフラを有効活用する視点であるとか、それぞれ持っている国際的なネットワークをお互いに結び合うとか、あるいは国際協力を行っているものをお互いに使い合うとか、いろいろなことが考えられるのではないかと思います。そういうことを少し強調した方がいいのではないかとということが1点です。

2点目です。結局、どういう形をつくっていくのかというのは、第3章の2節に出てくるわけです。ほとんどのところで出てくるのは、人材、担い手の問題であって、結局は誰がやるのかということ。九州に人が定着しない、あるいは皆が出ていってしまうとなる。そうなる人材が必要だという。であれば、その人材を定着させたり、うまく使い合うにはどうしたらいいのかということ、もう少し突っ込んでいった方がいい。お互いにいい人材を育てる仕組みがいるのではないか、あるいは使い合う仕組みがいるのではないかと、といったことに突っ込んでいけば、もう少し次の展開につながるのではないかと。人材が必要であるという記述で終われば、そうですねで終わってしまうことになる。

3点目は、高齢化の話と少子化の話。少子高齢化と書いておられます。高齢化というのは非常に厳しい。北九州市でさえ2020年には65歳以上は32%となります。驚くような数字となります。全体の高齢化という意味では少ししか書かれていない。それは中山間地、離島などと皆同じではないか。ここをもっと強調した方が九州らしさが出るのではないかと。

最後に、個別プロジェクトがどのような形が出るのかまだわかりませんが、出る場合には表現について、しっかり協議して頂きたいと思います。

#### 【事務局】

ご意見として承りましたので、また今後検討させていただきたいと思います。

#### 【事務局】

まさに効率的・効果的・一体的な取り組みとしていくという観点、これは今回の計画のポイントではないかと思います。そういう取り組みが、ほかのところと比べると九州は、開始自体は早くからされています。その中で、今後の10年をどうやっていくのかということ、戦略に書かなくても、こういうプロジェクトでやっていきたいと思いますというようなこと、あるいはその体制のようなことを打ち出せれば、フロントランナーと位置づけられるわけです。そのためには、人材が非常に大事なポイントであるということも我々はわかってお

ります。その人材についても、高度な技術をもった人材あるいは生産をする人材、国際的な人材、日本人に限らないということも含めてですが、そういうところについての具体的な取り組みの方向が見つけきれていないというのが正直なところです。

こういったところについて、どういうプロジェクトがあるのかということ、ぜひこの場でも幹事会の場でもいいのですが、議論をさせてもらえればと思っております。よろしくお願いを申し上げたいと思います。

#### 【大分県】

いまの副局長の話に関連します。九州では、九州地方知事会あるいは九州地域戦略会議、九州観光推進機構など、各県で連携してやってきたということもあります。既に政策連合ということで進めていることも相当にありますので、今までの九州地域の取り組みをこの計画の中に盛り込んでいって頂きたい。これまで知事会や戦略会議でやってきたことを別個に立てると、どういう関係になっているのかという疑問が出てくると思います。これまでの九州地方の取り組みを評価し、それをこのようにやるとか、こうではないがこのようにやるとか、続いているように作って頂いた方が、少なくとも県レベルとしては、取り組みやすくなると思います。

環境問題にしても、他県との連携などいろいろと意識してやっているのは、政策連合とか、形があるものとしてやっているものが結構あります。それがこの計画の中に入ってくると、これまで取り組んできたが、これからはこうしようということで、リレーすると思います。全く別個のものとして存在すると、これまでのものとのつながりが切れてしまい、取り組みがどちらを向いてやるのかということになってしまうと思います。

計画の推進体制についても触れられていましたが、先ほど私が、主語はだれかと言ったのはそれです。書きっぱなしでだれが進めるのかよくわからないということでは一番まずいと思います。計画の推進体制のところについては、できるだけ具体的に書くということが必要だと思います。

個別の議論は、各県がそれぞれ言い出したらきりが無いと思いますが、一般論として限界集落というのが、いま全国的に話題になっているので、その辺の記述をもう少し充実し、書き込んだ方がいいと思います。九州地方の場合には、特に、全国的にみてもフロントランナーにならないといけない可能性があると思っておりますので、そのあたりの記述を少し充実させた方がいいかもしれないということです。

## 【事務局】

1点事務局から、政策連合のお話が出ましたので提案でございます。私どもも政策連合ということで、情報は入手しておりますが、実際にどのような形で動いているのか、それがどういう方向性を目指しているのか、把握できない部分がございます。それぞれ幹事の県さんがいらっしゃるということですので、ぜひ各県さんの方から、政策連合をもう一度見ていただき、これは政策連合としてぜひ計画に載せたい、というご意見を幹事会等を通じて頂ければありがたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

## 【福岡市】

福岡市でございます。福岡県がいわれましたのは3点ございました。1点目はアジアの交流広域都市圏ということに記載して頂きたい。これにつきましては、かなり練ってきたコンセプトがございますので、ぜひお願いしたい。

2点目の福岡空港につきましても、画期的なPI手法で調査をやっておりますので、それを踏まえた抜本的な整備について明記して頂きたいという点。

3点目、これは地方自治体としての分権の問題、三位一体改革のあと、交付税が減らされた中で、非常に最重要課題でございますので、その視点はぜひ必要だと思えます。この3点についてぜひ検討をお願いしたい。

別途、1、2点ございます。九州が発展していくということは、皆さんのコンセンサスかと思えます。この中で、国土形成計画、全総の流れからするとなかなか書きづらいかと思えますが、例えば11ページに、人口減少、少子高齢化の進行が課題として書いてあり、30ページに政策もある程度書いていますが、私は九州の今後の発展を考えたときに、2005年から2030年までの間に200万人の人口が減っていくということに、大変な危機感を抱いております。いま九州は自動車産業、半導体、いい流れがきていると思えますが、その担い手としての人がこれだけ減ってしまう。それから高齢化が進むということは、非常に危機的ではないかと思っております。その意味では、先ほど北九州市さんにもいわれましたが、少子化とか高齢化について、もう少し記述をする、例えば29ページのところで「すべての世代が安心とゆとりを実感できる生活環境を形成」という部分がございますが、このあたりを少し分解し、子育てと人材の話とか、高齢化の対応とか、そういうところを明確に、内容を充実するということができないかと思えます。

人材につきましては、九州における理工系の人材が、就職するときには3大都市圏に流れていきます。そこで修行を積んだ人がくる仕組みとか、具体的にそういう人材を確保したり、戻したりする仕組みを皆で知恵を出し合い、少し具体的なことが書けたらどうかと思います。以上でございます。

#### 【海上保安本部】

海上保安本部です。言葉の問題になるかもわかりませんが、資料3の10ページで離島地域では領海の確保や云々というのがあります。これは国の権限については、領海、排他的経済水域、あるいは大陸棚、これにつながる権益があるので、ここは領海の確保というのはどういう意味でいったのかわかりませんが、海洋権益の確保というような表現の方が適切ではないかと思います。

この写真のところで対馬のところにも領海の保全というタイトルがついているのですが、できたらその言葉も海洋権益と書く方が、この場合に適切かなという気がいたします。

それから右側の大きな（四角）のところの左下のところです。国境・外洋離島等の対応というのがある。国防ということがあります。この国防については、いま決まっている関係省庁の所管ではないと思います。警察や海上保安庁を意識して書かれたとすれば、国防というよりも領海警備、海上の安全という言葉が適切でしょうし、海洋資源の保全という言葉がありますが、言い慣れた言い方とすれば、海洋資源の確保とか、海洋環境の保全、そういう表現が適切ではないかと思います。

#### 【長崎県】

いまのお話に関連したことです。いま離島は領海の確保、国境・外洋離島のところでご意見がございました。離島の中でも特に九州の離島というのは、瀬戸内海とは違って、外洋性の離島、あるいは国境域の離島という特性がありますので、それがイコール非常な隔絶性につながっている一方でそういう重要性もあるということ、このあたりは、全国計画の中で国境離島について位置づけられた書き方があったと思いますので、その趣旨を活かす形で文言の調整をしたほうがよいのではないかと思います。

#### 【九州経済連合会】

先ほど北九州市さんがおっしゃったのですが、アジアとの関係の中で九州の中がバラバ

ラにやっていて、中国から少しまとまってくれないと困るというお話があったのですが、実は、経済産業局さんと九州経済連合会が共同事務局になって、九州アジア経済国際化推進機構という、観光推進機構の国際版のような、国際化推進機構というものをつくって、そこで各県さんと経済界とジェットロさんなど、いろいろな関係機関も一緒になって、九州の国際化を一緒になって取り組もうという組織をつくっております。

その事業として、私どもからも出しておりますが、環黄海経済交流会議とか、そういうものも国際化推進機構が中心になって現に進めています。例えば、海外に対する九州のPR活動や海外の企業の九州への誘致活動など、各県がバラバラでやるよりもまとまってやった方が効果的な事業については、この国際化推進機構という枠組みを使ってやりましょう、ということをもう10年くらい続けております。

これも九州地域戦略会議、九州知事会と一緒にあって戦略会議の中でもっと国際化推進機構を強化し、それぞれが競争した方がいいところは競争する、一緒になって取り組んだ方が効果のある国際交流関連の事業はそこでやるという話もあります。

このレポートはハード的な部分が多いのですが、そういうソフト的な取り組み、おっしゃったような連携や、そういうものの例として、九州経済国際化推進機構という取り組みも、県と一緒にあって現にやっている。そういうものをさらに進めていけば、国際化、アジアとの交流の面でも、より一体化した取り組みがさらに進むと思います。その辺をぜひつけ加えていただくといいのではないかと考えております。

#### 【九州経済産業局】

今日の議論は、どちらかというと理念だということなので、九州全体としていえば、東アジアとかアジア、環黄海経済圏とか、そういうところとの圏域というか、経済交流圏の形成ということ、その方向性として出していくということでは、我々としても意見は出しております。先ほど坂梨常務（九州経済連合会）がおっしゃったような個別案件については、今後またいろいろとご意見として入れさせて頂こうと考えております。

#### 【北九州市】

環境への取り組みのところの書き方です。環境共生アイランドという言い方で書かれております。資料3の7ページです。ここには書かれておりませんが、本文には書かれているようです。温暖化の取り組みがこの程度の書き方でいいのかというのが気になります。

様々な情報収集、発信や調査研究という話でいいのか。これだけ大きな話になってきて10年後を考えたときに、もう少し突っ込んだ話がいいのではないか。議論はいろいろあり、書くのは難しいと思いますが、情報収集・発信、調査研究くらいでは少し弱くないかという気がするのですが、いかがでしょうか。

**【事務局】**

理念的なことということで、取り上げたという形の表現になっているかと思います。また具体的なプロジェクト、政策事業、そういうものは具体的に反映されている中で表現を修正していくということも考えております。ぜひ具体的な取り組み等を情報提供いただき、それを行動計画に反映していく。そのような形で充実させていきたいということで考えておりますので、よろしくお願いいたします。

**【司会】**

ほかにございませんでしょうか。では、以上で議事1と2を終わらせて頂きます。

次に、議事3その他としまして、九州圏広域地方計画策定スケジュールについて事務局からご説明いたします。

**【事務局】**

お手元に参考資料と右肩に記しましたA4横のカラーのスケジュール(想定)資料がございます。本日1月24日プレ協議会を開催させて頂きました。先ほど話題に出ておりました意見交換会を2月の初めに、プレ協議会の構成団体の長の皆様方にお集まりいただきまして、意見交換会を開催させて頂く予定でございます。なお、その後、全国計画が閣議決定されますと、これを受けまして20年3月予定を想定して書かせていただいておりますが、本体でございます九州圏広域地方計画協議会の発足という流れで考えております。それまでに学識者懇談会及び当プレ協議会を1回程度それぞれ開催したいということで、現在考えているところでございます。

また、本協議会の発足にともないまして、現在、キックオフレポートとしておりますが、広域地方計画の中間整理案ということで、協議をすすめて頂きたいということで考えております。中間整理がまとまりますと、市町村提案。これは法定の手続きでございます。市町村からの御意見を賜り素案を作成、そして本年の夏を目標に計画原案の取りまと

めという流れで進めさせて頂きたいということで考えております。

あくまでも想定ではございますが、こういうスケジュールを事務局で考えているところでございます。以上でございます。

【司会】

ただいまの説明につきましてご質問等ございませんでしょうか。

【九州経済連合会】

ご質問です。意見交換会ではどこまで資料を出されるのか。きょうの資料がそのまま出るのか。それとキックオフレポートです。これはどの段階で出るのか。それとプロジェクトを含めたところのものはどこで出るのか。そのあたりがこの中では読めないの、どこでどういうものが審議されるのか教えてください。

【事務局】

今回の意見交換会につきましては、本日配付させて頂いております資料を基本的には考えております。ただ説明時間が非常に短いので、これから資料の圧縮をするということになるかもしれません。そのあたりは、幹事長である皆様方に、こういう形でやりたいということをご相談させて頂きたいと思っております。

キックオフレポートということで現在ご議論を頂いておりますが、先ほどから説明しておりますように、非常に短期間で中間整理案の審議が必要です。キックオフレポートにつきましては、基本的に現在お示しさせて頂いている素案が、中間整理案に引き続いていく、内容としては引き続いていくという考えでおります。レポートとしてまとめて提出するということは、現時点では事務局としては、考えておりません。内容をそのまま中間整理案に反映していきたいという考えでおります。

それとプロジェクトにつきましても、できるだけまとめて中間整理案の中に盛り込んでいく、端的に言いますとキックオフレポートとプロジェクトが一つになったものが中間整理案という形になっていくというイメージで考えているところでございます。

今回のプレ協議会には、どこまで事業の具体的なものを出せるのか、見えておりませんが、幹事会の方々にご相談させて頂きながら、学識者懇談会及びプレ協議会にお諮りしていきたいと考えております。

以上でよろしいでしょうか。

【九州経済連合会】

次回3月の第3回プレ協議会で出てくるということか。

【事務局】

はい。その中で中間整理案という形を出していきたいということで考えているところがございます。ただ調整等がございますので、具体的にどこまで出せるのかということはお約束できませんが、事務局として精一杯頑張ろうと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【司会】

ほかにごございませんでしょうか。なければ以上で議事3を終わらせて頂きます。最後に副局長の小池から一言申し上げます。

【事務局】

本日は大変にお忙しい中、長時間にわたり、ありがとうございました。大変多岐にわたるの対応をどうしようかと思っておりますが、ご意見を頂きましてありがとうございます。冒頭で申し上げましたように、理念、プロジェクト、それを支える事業というような基本的な枠組みがございます。今日お示したような理念で書けるもの、それからプロジェクトの方で書いた方が整合のとれるもの、これは整理をさせて頂きたいと思っております。

九州に限らず、全国一律のご意見もありましたので、そのあたりは考え方を確認した上で対応したいと思っております。

お願いがございます。本日の会議で発言したことを言っておいて頂ければ、事務局と幹事会メンバーの間でやりとりをさせて頂きたいと思っております。よろしくお願いいたします。本日は本当に長時間で大変でしたが、ありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。

【司会】

以上をもちまして第2回九州圏広域地方計画プレ協議会を閉会させていただきます。あ

りがとうございました。

(以上)